

中九州横断道路 一般国道57号 たきむろざか 滝室坂道路が  
令和8年度に開通します！

○一般国道57号 たきむろざか 滝室坂道路(延長 6.3km)は、大分市と熊本市を結ぶ高規格道路中九州横断道路の一部を構成し、沿線地域の産業発展や地域活性化に寄与するとともに、災害に強いネットワークの構築を目的とする道路です。

○この度、一般国道57号 たきむろざか 滝室坂道路(延長 6.3km)において、滝室坂トンネルが貫通し、トンネル覆工工事完了の目処が立ったため、残る工事工程を精査した結果、令和8年度に開通する見通しとなりましたので、お知らせ致します。

○引き続き、一日も早い開通に向け、工事を推進してまいります。

## ○ 開通により期待される主な効果

- ・防災力の向上 災害時における信頼性の高い道路ネットワークを構築
- ・安全性の向上 走行性・信頼性及び交通安全性の向上
- ・物流効率化 製造業等に対する物流の効率化を支援

## 問い合わせ先：

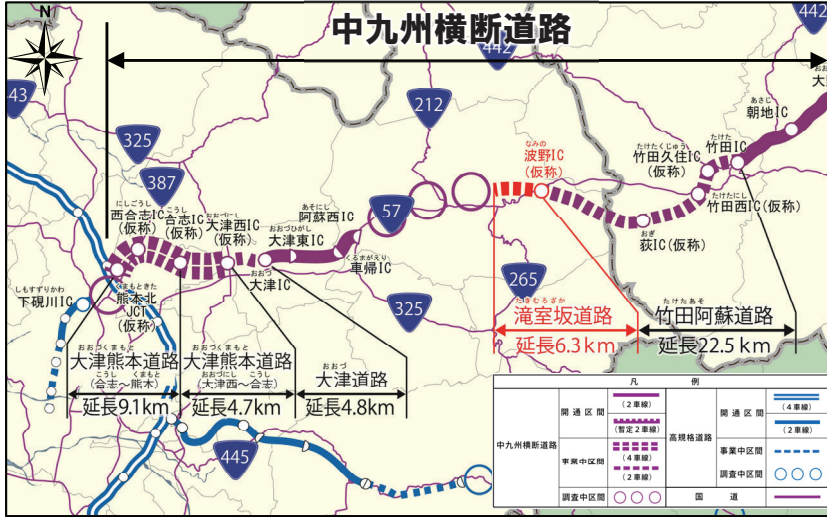
国土交通省 九州地方整備局 熊本河川国道事務所(TEL:096-382-1111(代表))



【総括】技術副所長 ながの ひでたか 長野 秀隆 (内線205)  
【工事関係】工務第三課長 いけだ としひこ 池田 敏彦 (内線411)  
【整備効果】計画課長 よこやま ともひろ 横山 朋弘 (内線451)

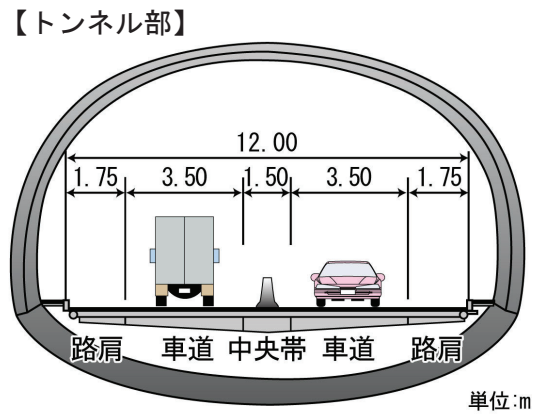
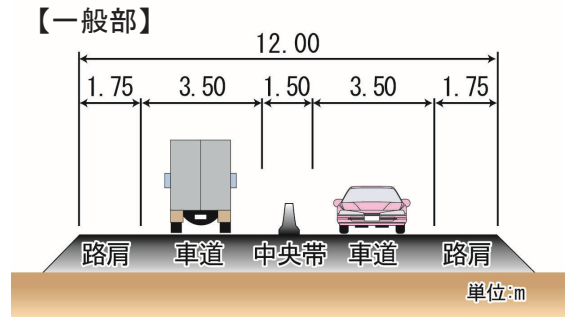
URL: <http://www.qsr.mlit.go.jp/kumamoto/>

- 一般国道57号滝室坂道路は、高規格道路「中九州横断道路」の一部を形成し、災害発生時の代替路確保、走行性の向上等を目的とした事業である。
- 平成24年7月の九州北部豪雨により滝室坂地区の国道57号が激しく被災し、仮復旧まで40日間の全面通行止めが発生した。



▲ 中九州横断道路路線概要図 (熊本県区間)

事業区間	起) 熊本県阿蘇市波野大字小地野 終) 熊本県阿蘇市一の宮町坂梨
計画延長等	6.3km (第1種第3級, 設計速度80km/h)
幅員	12.0m (2車線)
事業化年度	平成25年度



▲ 標準断面図



▲ 事業箇所概要図

凡例
国 道
主要地方道
一般県道
一般県道 (事業中区間)
事業中区間



▲ 被災状況 (H24. 7) と仮復旧状況 (H24. 8)



▲ 起点側 波野地区 (R6. 2)

▲ 終点側 坂梨地区 (R6. 2)



# 防災力の向上 災害時における信頼性の高い道路ネットワークを構築

【WISENET2050】



- 滝室坂地区は100mm以上の雨量観測日が県内平均を上回っており、連続雨量が170mmを超えると事前通行規制となり、迂回を余儀なくされる。
- 中九州横断道路の一部を構成する滝室坂道路の整備により、災害時における代替路が確保され、災害等での通行止めや事前通行規制に影響されない災害に強い道路ネットワークの構築を図る。

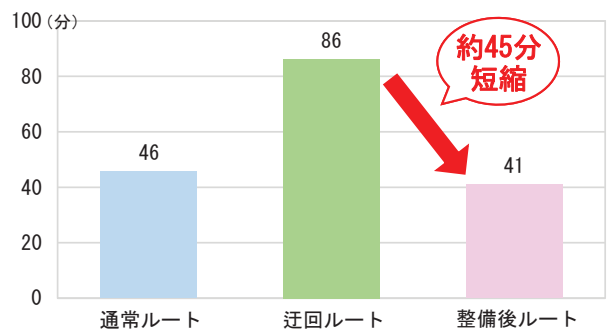


▲ 国道57号の事前通行規制区間と通行止め発生時の迂回ルート



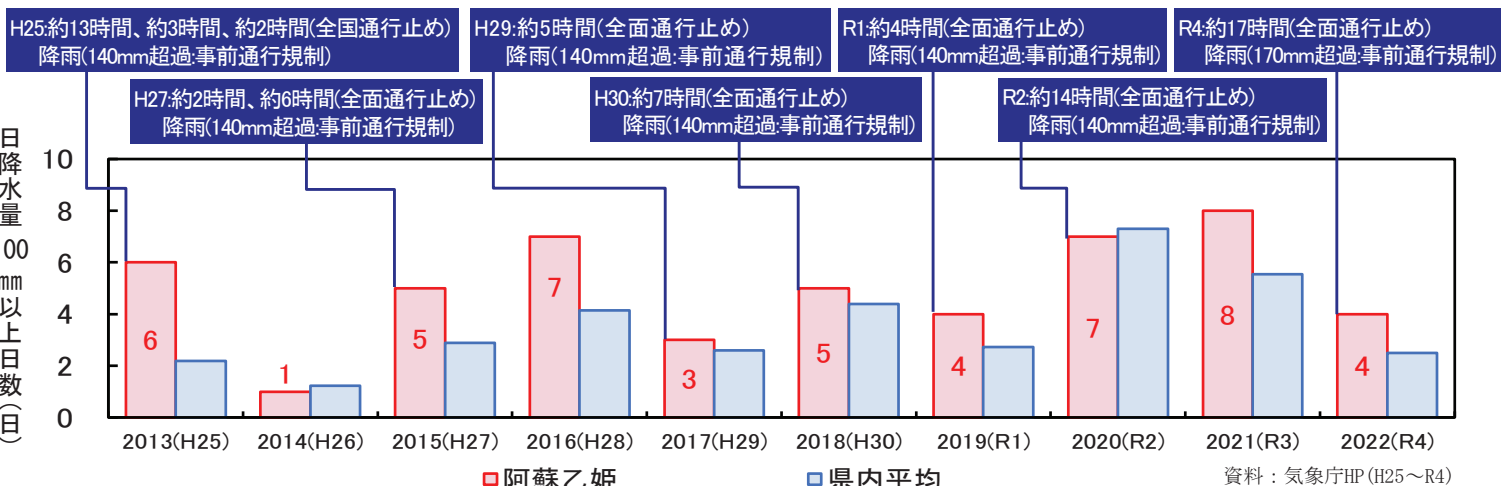
※R2.10.3に事前通行規制基準雨量を140mmから170mmに見直し

▲ 事前通行規制の状況



資料：全国道路・街路交通情勢調査 (R3)  
 ※滝室坂道路は設計速度(80km/h)  
 その他の道路は混雑時旅行速度を用いて所要時間を算出。

▲ 阿蘇市～竹田市の所要時間

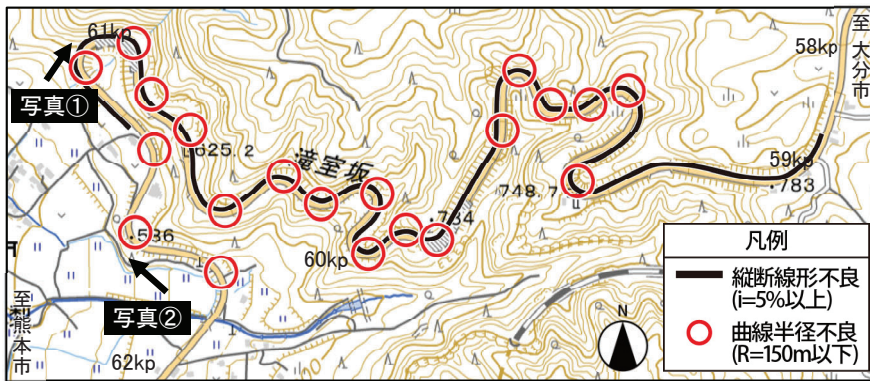


※日降水量100mm以上の年間日数は、気象庁発表の「異常気象リスクマップ」の評価指標とされている。  
 ※滝室坂地区は阿蘇乙姫、県内平均は他11観測所を含めて算出。

▲ 滝室坂地区の日降水量と通行止め履歴 (H25～R4)



- 滝室坂道路に並行する国道57号滝室坂地区は、線形不良箇所が存在しており、これが起因すると想定される正面衝突や車両単独事故の割合が県内直轄国道と比べて高く、運搬物の落下事故も発生している。
- 加えて滝室坂地区は、標高が高く、積雪や路面凍結による通行規制の割合が高い。
- さらに、縦断勾配の急な箇所が存在し、スリップやスタックが生じやすいため冬季の事故割合が高く、減速による渋滞も発生している。
- 滝室坂道路の整備により、線形不良箇所の回避が可能となり、交通安全性の向上が期待されることや、路面凍結箇所をトンネル構造で回避可能となり、走行性及び信頼性の向上が期待される。

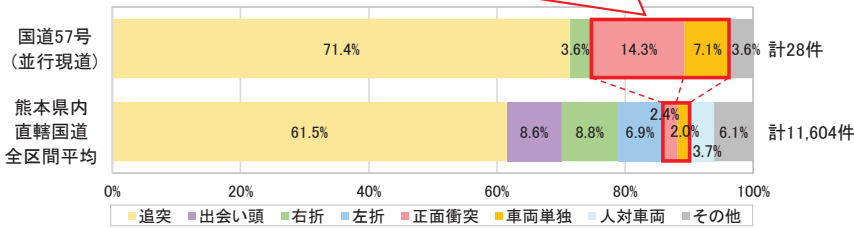


▲ 滝室坂地区の線形不良箇所



▲ 線形不良箇所の事故発生状況(写真①)

「正面衝突」「車両単独」など線形不良箇所を起因とする事故の割合が高い



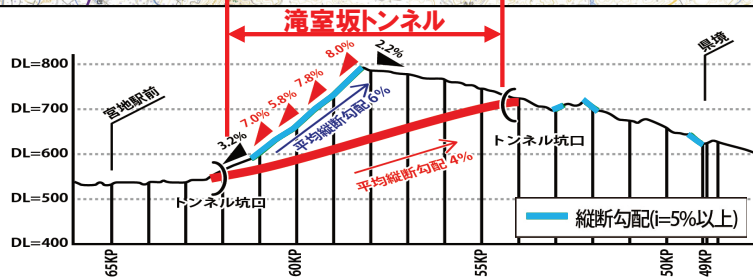
▲ 国道57号(並行現道)の事故類型



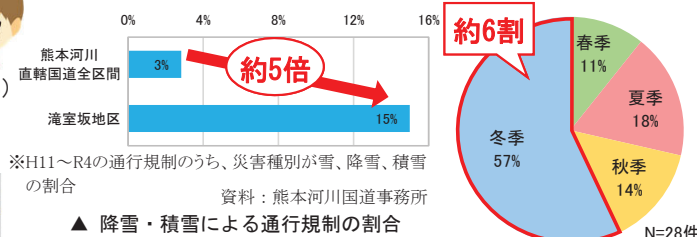
▲ コンクリート桁落下事故発生状況(写真②)

・ 滝室坂地区は道幅が狭く、カーブが多いため、中央線を越えて通行する必要があり、対向車との事故の危険性がある。

(物流業者ヒアリング：R5.8)



▲ 国道57号現道の縦断図



▲ 降雪・積雪による通行規制の割合



▲ 路面凍結発生状況(写真①)



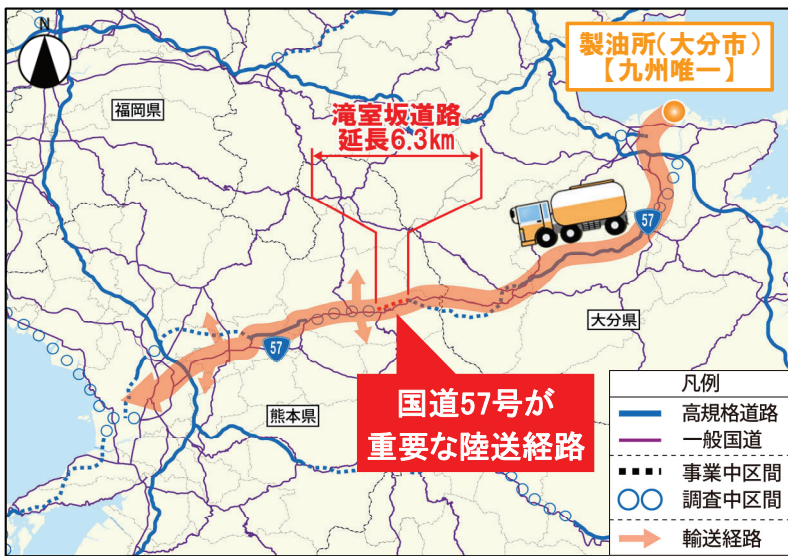
▲ 冬季の渋滞発生状況(写真②) (阿蘇市役所ヒアリング：R4.11)

・ 滝室坂付近は大型車通行が多く、坂道・カーブが多いため、事故の危険を感じる。また走行性も低いため、移動に時間がかかっている。

・ 滝室坂道路整備によるトンネル開通により、移動がスムーズになり、災害・天候に左右されない移動経路の確保が期待される。



- 国道57号は産業活動において重要な路線であり、熊本県で消費されるガソリン等は、九州唯一の製油所を有する大分市から陸送による輸送が主であり、そのほとんどが国道57号を利用している。
- また、熊本県には大手自動車メーカー国内唯一の二輪車生産拠点があり、完成二輪車は県外港から船積みされている。
- 熊本～大分間は一般道経由により時間を要し、走行性も悪く非効率な輸送となっている。
- 滝室坂道路の整備により、中九州横断道路の連続性が確保され、線形不良箇所の回避によるドライバーの負担軽減や所要時間の短縮につながり、効率的な輸送の実現により地域産業に貢献することが期待される。



資料：石油業者ヒアリング (R4. 12)

▲ 大分県から熊本県への陸送によるガソリン等の輸送ルート

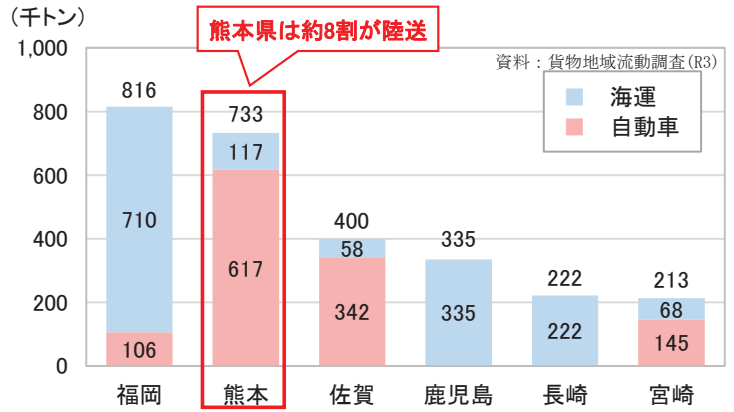
・滝室坂地区が通行止めとなった場合、大分自動車道を経由して輸送することになり、距離も長く、高速道路の利用料金もかかるため輸送コストが増大するといった問題がある。



(石油輸送業者ヒアリング：R4. 9)

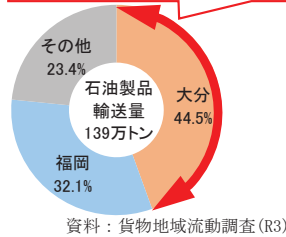


▲ 完成二輪車の国内出荷時の主な輸送ルート



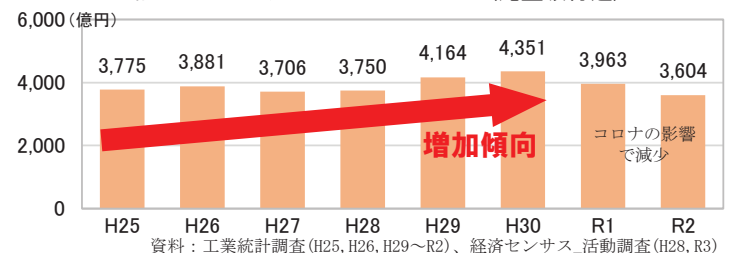
▲ 大分県から九州各県への石油製品の輸送量

熊本県への輸送は大分県から約4割(ほとんど国道57号を利用)



▲ 熊本県への石油製品の発地別輸送割合(自動車)

▲ 国道57号の利用状況(滝室坂付近)



▲ 輸送用機械器具製造業の出荷額の推移(熊本県)



▲ 二輪車組立工場～白杵港までの所要時間

・滝室坂地区では完成二輪車の転倒を防ぐため、低速で走行する必要があるため時間がかかる。ドライバーの精神的負担にもなっている。さらに、通行止め時は迂回により輸送時間がかかるため、輸送コストが増加、ドライバーの拘束時間の増加にもつながる。

・滝室坂道路の整備により、走行性が向上し輸送時間の短縮が期待される。また定時性の確保、輸送コストの削減等も期待される。



(物流業者ヒアリング：R5. 8)